

枚方市枚方宿の景観まちづくりにおける 修景実施のプロセスに関する研究

中田 大貴¹

¹学生会員 大阪市立大学工学研究科都市系専攻
(〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138, E-mail:daiki.nakata.0517@gmail.com)

明治以降の近代化の過程で町家が中高層建築物に建て替えられ、地域固有の景観が失われている。歴史的町並みにおいては、国による伝統的建造物群保存地区の制度により保全が行われているが、これに指定されていない地域では、景観法が活用された。しかし、これは修景時のルールであり修景を強制するものではなく修景実施の可否は、建物所有者の意志決定に依存している。よって修景実施に至るまでの生活での経験が建物所有者の意志に影響を及ぼしているという仮説から、修景実施者にヒアリング調査を行うことで、修景実施に至るプロセスを把握し、これに影響を及ぼしたものを分析した。これにより伝建地区等の国の取り組みが行われていない地域における景観形成を促す取り組みへとつながる景観まちづくりの可能性を示した。

キーワード:歴史的町並み、宿場町、景観まちづくり、修景、集積量

1. はじめに

(1) 研究背景

明治以降の近代化により、町家が中高層建物に建て替えられ¹⁾、歴史的町並みは壊されてきた。この中、歴史的町並み保全は、伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）の制度を用いて全国的に取り組みされてきた。2004年に景観法が誕生し、地方公共団体が景観行政団体となることで歴史的町並み保全についても景観法を活用できるようになった²⁾。しかし、景観法による景観計画は修景^{注1)}時のルールであり、修景実施の可否は建物所有者の意志決定に依存しており³⁾、修景実施に至るまでの生活での経験がその意志に影響を与えると考えられる（図-1）。また、景観法を含め、地方分権が進む中、住民組織により地域活性化として様々なイベントが行われており、このような活動と行政による取り組みが景観まちづくりとして取り組まれている。

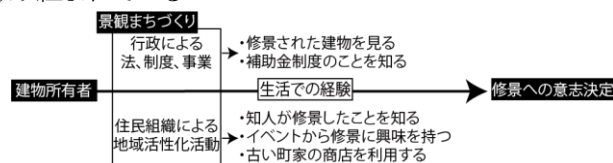


図-1 修景実施に至るまでの流れの概念図

(2) 研究の目的

本研究は、実際の事例を取り上げて、①建物の立地状況から現存する町家の位置等の現状を把握する。②景観まちづくりの取り組みの実態を把握する。③修景実施者の

修景実施のプロセスと修景の実態を個別事例から調査し、修景実施に至った契機と要因を把握する。④①～③から、景観まちづくりにおける取り組みと修景実施に至った要因、そのプロセスとの関係を明らかにすることを目的とする。

(3) 対象地の概要

対象地は旧街道沿いの宿場町であった枚方市の枚方宿を対象とする。枚方宿は、東海道57次の56番目の宿場町であり、現在では当時の道幅や町家が数件残っている場所である。また、その歴史を活かし、住民組織である「枚方宿地区まちづくり協議会（以下、まち協）」が「五六市」という手作り市を毎月開催している。現在は、300店舗ほどが出店しており、来訪者数は8000人を超えている。また、枚方市による景観計画が策定されており、景観計画区域内の景観重点地区に指定されている。



写真-1 枚方宿での五六市開催時の様子

(1) 既往研究

景観まちづくりの研究としては、林ら⁴⁾によって修景

の助成制度の課題を抽出したもののや、田中ら⁵⁾によって景観条例・まちづくり条例による市民団体の活動特性を明らかにしたものがある。歴史的町並みに関する研究としては、大島⁶⁾、松本ら⁷⁾、によって伝建地区における研究は数多く蓄積されてきた。伝建地区以外の地域における宿場町の研究としては、磯野ら⁸⁾によって歴史的な変遷を追ったものや、尚ら⁹⁾によって、景観資源の現状を把握したものがある。本研究は、歴史的町並みにおいて、伝建地区等の国の法制度に指定されていない地域において、個別の修景実施者の修景に至るプロセスから修景に至った要因を分析する点に特徴がある。

2. 枚方宿における修景の実態

枚方宿の建物は図-2のように分類できる。これらから、①歴史的景観建造物^{注2)} (以下、歴建)、歴建の指定のない町家、修景された一般的な建物②建物の高さ③建物の用途④現在の五六市の出店場所、の4つの指標から集積量を用いて分析する。

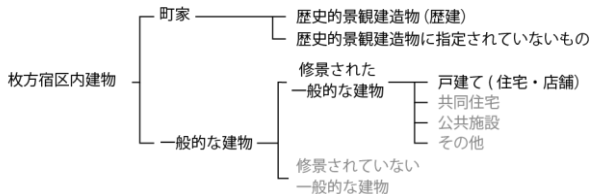


図-2 枚方宿における建物の分類 (黒字が本研究の対象)

集積量の割合によって、各指標の建物がどこに、どの程度集まっているかを視覚化し、指標①の割合が20%を超えている5つのエリアに分類した(図-3)。各エリアにおいては、②③④の指標からそれぞれの特徴を図-4にまとめた。



図-4 枚方宿における修景実態とヒアリング対象者

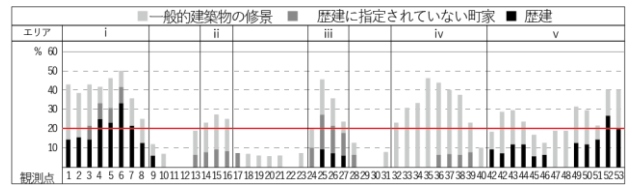


図-3 修景に関する集積量の割合

3. 枚方市・まち協による景観まちづくりへの取り組み

枚方市へのヒアリング調査と文献調査から、枚方市により都市景観形成要綱(以下、都市要綱)が施行されており、街環が行われ、まち協が設立された時期を初動期(1999~2005年)、枚方市による石畳と淡い街灯街づくり事業が開始され、まち協により町家情報バンク(以下、バンク)、五六市が開始された時期を発展期(2006~2013年)、枚方市により景観計画が策定された時期を成熟期(2014~2017年)に区分できる(図-5)。

| 年 | 枚方市 | まち協 | 特徴 |
|-------|------------|------------------|---|
| 1999年 | 都市要綱の制定 | | 1期 初動期(1999~2005年) ・都市要綱にて大規模建築物等が届出対象に ・歴建の指定が開始→町家保全 ・街環事業の開始→既存建物の修景 ・まち協の始動 |
| 2000年 | | まち協の設立 | |
| 2001年 | | 街道菊花祭・ジャズストリート開始 | |
| 2002年 | 街環事業の開始 | 修景ガイドラインの作成 | 2期 発展期(2006~2013年) ・石畳事業による公共施設の修景 ・バンクによる空家の修景 ・五六市の開始により来訪者の増加 ・まち協が修景協議に参加開始 |
| 2006年 | | バンクの開始 | |
| 2007年 | | 五六市の開始 | 3期 成熟期(2014~2017年) ・景観法による法的効力 ・枚方宿が景観重点地区に指定 ・景観計画にて、枚方宿の全ての建築物が届出対象に |
| 2009年 | 石畳事業の開始 | | |
| 2014年 | 枚方市景観計画の策定 | | |

図-5 枚方宿の景観まちづくりの流れのまとめ

流れとしては初動期では、枚方市により町家の保全が主に進み、まち協の設立による手探りの景観まちづくりが始まり、発展期にて既存建物、空家、公共施設の修景、まち協による枚方宿のメインイベントである五六市によって徐々に来訪者数が増加し、バンクにより新たな修景さ

れた店舗が出現し、成熟期にて新築の修景、五六市が定期開催され、枚方宿における景観まちづくりが定着した。

4. 景観まちづくりにおける修景実施の実態

本研究のヒアリング対象者として①保全ではなく修景が行われたもの②修景実施者と建物利用者が一致する建物、の2つを条件とし図-6で示す。よって、ヒアリング対象者は修景された一般的な建物で戸建て（住宅・店舗）とする。

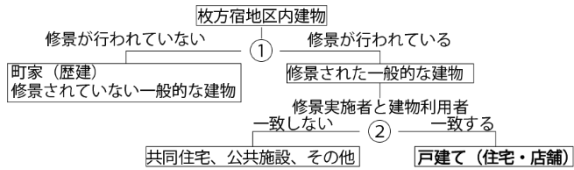


図-6 ヒアリング対象者（太字）の選出

(1) 修景実施に至った要因とそのプロセス

表-1 ヒアリング対象者の修景のプロセスのまとめ

| 修景実施者 | プロセス |
|--------------|---|
| サノヤ | 枚方宿にて、ホームショップを営むが、タバコ屋へと店舗を改装する際に枚方市から助成金の話を聞き、修景実施を行う。 |
| モガジョガ | 守口宿にて、修景した建物にて店舗を運営していたが、枚方市が誘致を行い、枚方宿にてバンクを利用して店舗を開く。町家への高い評価が修景実施へとつながる。デザインに関しては自分でやっている。 |
| mani café | 枚方で店舗を開店しようとしたときにインターネットによりバンクの存在を知り、枚方市による助成金の条件に合うように修景を行う。 |
| a new sprout | 陶芸家として活動するための窯を探していたところ、新聞にてバンクの存在を知り、枚方市の要請により修景を行う。 |
| 塩熊商店 | 枚方宿の町家にて幼少期を過ごし、その後、建材屋を営む。ホームセンターの出現により、雑貨屋へと改修する際に幼少期の町家や、五六市の運営に関わっていたことから、街並みに合った外観を意識し修景を行う。 |
| 片山 珍古堂 | まち協にて修景に関わり、また自治会長であり、まち協にて修景の助成金の仕組みを知る。建物の老朽化を契機に枚方宿の修景のモデルケースとして修景実施を決心する。 |
| note gallery | 知り合いが枚方で店を開きたいという話を聞き、インターネットによりバンクの存在を知る。その後、五六市にも参加し、自分もバンクに登録し修景を行う。 |
| 篠原郎 | 枚方市で人が交流できる場所を作りたいと考え、五六市に参加したこともあり、枚方宿に住むことを決め、枚方宿の歴史を踏まえた建物を建てることを決意し、修景を行う。 |
| アトリエ シャルナ | 枚方市にて店舗を新築したいと考え、景観計画で外観が規制された建売住宅を購入する。外観に関しては、規制に応じたいくつかの選択肢から色等を選択した。 |

修景前の住まいに関しては、枚方宿にもともと住んでいた人よりも枚方宿外から移り住む、または新たに店舗を開店する新来者が多く見られた。修景前の枚方宿への関わりに関しては、五六市に関与している人が見られた。2007年に五六市が開始されたことから、その後五六市が定着するにつれてそこに関与していた人が修景を実施した。修景実施に至った契機としては、様々なものが見られたが、主なものとしては店舗の開店に伴い、バンクを利用するものが4件あった。契機がない事例は見られず、

建物を新築・増築・改築する理由があったために修景が実施されることがわかった。修景の要因に関しては、修景の意志の有無から意志の無い「助成金、市の要請、景観計画」と意志の有る「景観への協力」の2つに分類することができた。それらをまとめ表-2とした。

表-2 修景実施のプロセスのまとめ

| 事例名 | タイプ | 修景前の住まい | | 修景前の枚方宿への関与 | 修景までのプロセス | |
|--------------|-----|---------|------|-------------|--------------|--------|
| | | 枚方宿 | 枚方宿外 | | 修景の契機 | 修景の要因 |
| サノヤ | B-1 | 2005 | ○ | | 建物の用途変更 | 助成金 |
| モガジョガ | A-2 | 2006 | ○ | | 店舗の開店（バンク） | 景観への協力 |
| mani café | B-2 | 2008 | ○ | | 店舗の開店（バンク） | 助成金 |
| new sprout | B-2 | 2009 | ○ | | 工房の建設（バンク） | 市の要請 |
| 塩熊商店 | A-1 | 2010 | ○ | 五六市運営 | 建物の用途変更 | 景観への協力 |
| 片山珍古堂 | A-1 | 2010 | ○ | 五六市運営 | 建物の老朽化 | 景観への協力 |
| note gallery | B-2 | 2011 | ○ | 五六市出店 | ギャラリー建設（バンク） | 助成金 |
| 篠原郎 | A-2 | 2012 | ○ | 五六市出店 | 新築 | 景観への協力 |
| アトリエ シャルナ | B-2 | 2015 | ○ | | 新築 | 景観計画 |

(2) 修景実施者のタイプ分け

修景実施者が①住民・新来者のどちらか②修景実施の意志の有無、の2点から4つのタイプに分けた（表-3）。A-1は、住民であり能動的に修景を行った事例であり、五六市への運営やまち協の委員であり、普段のまち協への取り組みの参加が修景を能動的に行うことへつながった。A-2は新来者であり能動的に修景を行った事例であり、本人の町家へのイメージや歴史的町並みへの景観への理解により修景を能動的に行っていた。B-1は住民であり受動的に修景を行った事例であり、住民であるが、まち協の取り組みへの関わりはなく、助成金の存在が修景につながった。B-2は新来者であり受動的に修景を行った事例であり、主にバンクを利用し、空家を活用する際に修景が行われている。新築のものは、景観計画の外観への規制により修景が行われた。

表-3 修景実施者のタイプ分け

| 修景意志(要因) | 住民 | | 新来者 | |
|----------|--------------|------------|---------------|---|
| | A-1 住民・能動タイプ | 片山珍古堂、塩熊商店 | A-2 新来者・能動タイプ | モガジョガ、篠原郎 |
| 能動的 | B-1 住民・受動タイプ | サノヤ | B-2 新来者・受動タイプ | アトリエ・シャルナ、mani café、a new sprout、note gallery |
| 受動的 | | | | |

5. 景観まちづくりと修景実施のプロセスとの関係

以上より枚方宿の修景実施と全体の景観まちづくりとの関係を分析した。図-7より各3期の修景の実態に関しては、初動期では、都市景観形成要綱より多くの町家が歴建に指定されている。発展期に関しては、五六市、バンクが開始され、まち協の取り組みが広がっていた時期であり、修景が実施された場所も同様に枚方宿全体に広がっていた。成熟期に関しては、景観計画による規制が始まったため、駐車場が集積しているエリアにおいて新築の修景が進んでいた。

枚方市・まち協の景観まちづくりへの取り組みと、修景実施のプロセスとの関係について①集積量によるエリ

アと修景実施のプロセスとの関係②景観の流れからみた各3期と修景実施のプロセスとの関係③修景実施後の景観まちづくりへのつながり、の3点から分析を行った。

6. おわりに

表4 結論のまとめ

| 集積量によるエリアと修景実施のプロセスとの関係 | |
|----------------------------|--|
| エリア i | 町家情報バンクにおいて早い段階でこのエリア内の建物が修景されており、町家の多さが新たな修景を促した。 |
| エリア ii | 既存の町家に見劣りしないように庇を長く設計しており、既存の町家が外観のデザインに影響を及ぼしていた。 |
| エリア iii | 枚方宿の中心に位置し、五六市の本部が置かれるなど、まち協の取り組みへの関与が修景実施を促した。 |
| エリア iv | 修景時にエリア内の町家の外観を参考にしたことや、駐車場の多さが新築の修景を促した。 |
| エリア v | 修景を受動的に行っており、エリアとの関係はないと考えられる。 |
| 景観の流れからみた各3期と修景実施のプロセスとの関係 | |
| 1期 | 修景に至った動機は助成金であり、まだ景観まちづくりが枚方宿で浸透していないことがわかる。 |
| 2期 | まち協の取り組みが始まった時期であり五六市により商業価値が高まり、店舗を開店したい人が町家情報バンクを利用することで、空家が修景された。 |
| 3期 | この時期は、景観計画が策定されており、新築の修景が景観計画の規制によって行われていた。 |
| 修景実施による景観まちづくりへのつながり | |
| 広告として | まち協の取り組みに中心的に関わっている店舗が修景を行うことで、新たな修景を促す広告としての役割が見られた。 |
| 修景の指標 | 隣接する建物が修景を行っている事例では、その外観を指標として修景を行っていた。 |
| 新たな参加者 | 新たな店舗として修景を行った事例が、新たに五六市時に建物前を出店場所に貸し出してあり、新たにまち協の取り組みに参加する者が現れた。 |

エリアとの関係より、現存する町家の存在はその町家の周辺の建物修景時に、よりデザインを工夫する姿勢が見られたため、現存する町家を中心として修景事業を展開することが求められると考える。また、景観を考える上では負のイメージがある駐車場も暫定利用されているものもあるため、新築の修景を誘導しやすいと考える。時期との関係より、枚方市・まち協の取り組みが修景実施のプロセスに大きな影響を与えていたことがわかったため、この2つの機関の取り組みが重要であることが確認された。修景が行われたことによる景観まちづくりへのつながりより、修景が進むことで新たな景観まちづくり

への参加者が増え、それが新たな修景実施へと繋がる流れが見られたため、最初に修景される事例をモデルケースとして相応しい修景を行うことが重要である。

本研究では、修景実施のプロセスを追うことで、修景実施に至る契機と要因を把握したが、修景後の建物の外観の妥当性の分析に関しては行っていない。そのため、修景が実施され、その外観の妥当性を評価する方法が課題となり、今後も研究を進めていくことが求められる。

注釈

- 注1) 修景とは建物に関しては修景基準に属するものが新築・増築・改築時にその基準により外観に関する行為を規制され、歴史的町並みに調和するように整備すること、公共施設に関しては事業として歴史的町並みに調和するように整備されたものと定義する。
- 注2) 枚方市都市景観形成要綱における条件を満たす町家に対して、修景の際に一般的な建物よりも高額の助成金を助成することで、保全計画を立て、建物を保全するために指定を行う制度。

参考文献

- 1) 正本彩子, 小浦久子: 通り景観における歴史的環境特性の持続に関する研究-京都都心地区の景観のまとめり調査より-, 日本建築学会計画系論文集, No. 567, 2003
- 2) 日本建築学会; 景観まちづくり, 丸善株式会社, 2008
- 3) 渡辺亮介, 磯野巧, 安村健亮, 梁鎮武, 曲宇航: 中山道望月宿における歴史的町並みの地域特性, 2014年度日本地理学会秋季学術大会
- 4) 林直孝, 浅野聡, 森河奨: 歴史的市街地における建築物の修景事業に対する助成制度に関する研究-東海4県の景観行政団体を対象にして-, 日本建築学会計画系論文集, No. 715, 2015
- 5) 田中晃代, 鳴海邦碩, 久隆浩: 景観条例・まちづくり条例にもとづく市民団体の活動と支援方策の特性に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 516, pp193-199, 1999
- 6) 大島規江: 伝統的建造物群保存地区における歴史的景観の変容, 日本建築学会計画系論文集, No. 581, pp61-66, 2004
- 7) 松本清吾, 野嶋慎二, 塚本雅則: 持続的なまちづくりと連動した街並み景観形成に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 565, pp193-200, 2003
- 8) 磯野巧, 安村健亮, 渡辺亮佑, 梁鎮式, 曲宇航: 中山道望月宿における歴史的町並みの形成過程, 地域研究年報, No. 37, pp1-31, 2015
- 9) 尚偉, 松本直司, 榎明含, 道尾淳子, マンソウリアハメッド: 中山道東美濃路における景観資源の現状と特性, 日本建築学会計画系論文集, No. 722, pp943-950, 2016



図7 景観まちづくりと修景実施のプロセスの関係